ある日の育児日記から

(42)

佐藤　和代

圭は五歳、有は二歳になりました。今年の誕生日は、子どもにプレゼントを選ばせてみようか、というわけで、皆でデパートに出かけました。

おもちゃ売り場の入口は、遊園地のよう。初めて来た二人は、ものも言わずに突進、あちこちかけずり回ります。こんなに喜ぶとは、普段、近よらせないよう努力したかいがありました。

やがて落ちついたのは、有が電動自動車のコーナー、圭が人形コーナー。すごいのですね、最近の人形用グッズって。ブランドものスキーウェア、子どもとおそろいの服、本物そっくりのシステムキッチン…。有をさっさとお父さんにまかせ、圭と私で回ります。気分はすっかり少女時代。あれいいねー、これもいいねと盛り上がったのですが。さて「これにする」と言われると…。「六千円のドレスなんて、圭の服買えちゃう」「このアクセサリーは小さすぎるわ、有が食べると大変」「こんなキッチン、大きすぎて部屋にはいらない」…だんだん夢のしぼむ圭。ごめんね、買うときは、気分は少女時代とはいかないわね。

さて、その夜テレビを見て、もう「あれ欲しい」が始まった圭。「じゃ、次の誕生日に買おうね」「はーい」。この会話がまた一年続くのでしょうね。